



修猷館ラグビーOBクラブ

会報 平成27年5月号

修猷館ラグビー部 公式ホームページ
URL <http://rugby-shuyukan.com/>

修猷館ラグビー部創部90周年記念事業のご報告

修猷館ラグビー部は、1925(大正14)年の創部から90周年を迎え、4月29日、福中・福高ラグビー部を招いて記念試合を行い、祝賀会では、受け継がれてきた伝統をかみしめながら、100周年に向けさらなる飛躍を誓い合った。



■平成27年度会費の納入にご協力をお願いします■

- ★年会費 7,000円(70歳以上5,000円、学生3,000円)
- ★振込先 ●西日本シティ銀行 西新町支店
普通1336258 修猷館ラグビーOBクラブ
- ゆうちょ銀行 [記号]17490[番号]87547981
他行からの振込 七四八(ナナヨンハチ)店 普通8754798

●発行 / 修猷館ラグビー部OBクラブ

事務局 / 坂本 弘 (S47卒)

〒815-0081 南区那の川1-23-30 (株)ポータル気付

携 帯 090-1362-6723

E-mail sakamoto@portal-inc.co.jp

6.6 (土) 11:00~

平成27年度OB総会
於:修猷館高校1F会議室

- 90周年記念事業の報告会を兼ねます。お誘いあわせの上ご出席願います。
- 現役は午後から練習です。ぜひ声をかけてください。
- ご出席の方は事務局までご一報ください。
- 連絡先:坂本 弘 (S47) 事務局長
携帯:090-1362-6723
E-mail:sakamoto@portal-inc.co.jp

7.3 (金) 18:00受付 18:00~

東京支部「新人歓迎会&OB懇親会」
於:学士会館 千代田区神田錦町3-28
TEL03-3292-5936

- 会費:社会人7,000円、60歳以上6,000円
現役学生1,000円
- 福岡の90周年行事に参加出来なかったOBも東京で盛り上がりましょう!
- 6月19日(金)までに参加表明をお願いします。
- 連絡先:原 大基 (S62) 副事務局長
メールアドレス:daikihara1874@gmail.com



40歳以上の面校OBが激しくボールを奪い合った

◀毎日新聞 (4/30)



OBら世代を超えて突進 修猷館高ラグビー部 創立90周年記念試合

【関東首魁】 大きな声援に包まれ、高校生による交流戦を実施。修猷館OBで、参加者の最高齢だった高橋雄さん(79)は「兄弟校として福高とラグビー部が続いていることがうれしい。試合でトライを挙げた遊辺康宏監督(51)は「選手たちのまっすぐな力が、世代を超えて共感できる日だった」と喜んだ。

同校ラグビー部はこれまで全国大会にも8回出場した。昨年は九州大会県予選で強豪の東福岡を破って優勝を果たした。

興立修猷館高校(早良区)ラグビー部が創部90周年を迎えたのを記念して29日、東区で福岡高校と交流戦を開催した。多くのOBらが世代を超えて真剣にボールを追いかけ、見守る高校の関係者も大きな声援を送った。

修猷館ラグビー部の創部は1925年4月。前年に興内で初めて創部した福岡高に続き、両校はその後もライバルとして競い合った。この日は、40歳前後で分けたOB戦、現役福岡高と交流戦

▼西日本新聞 (4/30)

修猷館ラグビー部

現役に負けず躍動 OBタツクル華麗 創部90周年記念試合

創部90周年を迎えた修猷館ラグビー部が29日、ともに館高校(福岡市早良区)の県高校ラグビー界の伝統を



年齢を感じさせない躍動感あるプレーを見せた修猷館高校ラグビー部のOBたち

▲ つくってきた福岡高校(同市博多区)と記念試合を行った。晴天にも恵まれ、集まった約150人のOBが、長年のライバルと体のぶつけ合いを楽しんだ。

九州の高校ラグビー界では、1924年創部で昨年90周年を迎えた福岡高が最も古く、翌年創部の修猷館高が2番目。伝統校同士の交流試合となった。

この日はOBと現役に別れて試合を行った。年齢を重ねたOBも積極的にタツクルに入り、現役世代に負けない躍動感を披露。野上智之さん(49)は同市南区は「絶好のラグビー日和で完全燃焼」と満足げ。現役主将の3年原田健司さん(17)は「僕らももっと元気を出して、刺激を与える存在になりたい」と気持ちを新たにしていた。

Over40



Under40



永遠の好敵手・福高なくして、修猷の今日はない

コカ・コーラウエストさわやかスポーツ広場(福岡市東区)での記念試合は、「卒寿」を祝うような好天に恵まれた。定期戦を兼ね、まず、OB戦がキックオフ。40歳以上と40歳未満に分かれたチーム同士が、意地をかけぶつかった。昨年、大敗した修猷OBは、3月から有志で練習を重ねてきた。しかし、40歳以上は、試合開始直前に阿部哲也さん(昭和62年卒)がアキレス腱断裂、直後にも司令塔の前田夏洋さん(昭和61年卒)が肋骨を骨折。参加選手最年長、79歳の齋藤雄さん(昭和30年卒)の投入も実らず、1トライを許して折り返した。後半も点差を広げられ敗色濃厚になったその刹那、この日一番のビッグプレーが。ロングパスを受けた佐伯智洋さん(昭和58年卒)が前進。相手FBと一対一になると、インゴールへ絶妙のパス。ボールを追った本人が肉離れを起こし、万事休すと思われたが、「あきらめるな〜」と日頃から叫ぶ渡邊康宏顧問(昭和57年卒)が後方から猛ダッシュ、楕円球に飛び込み、この試合、修猷、唯一のトライを挙げた。拍手と歓声に迎えられた顧問の顔には、珍しく笑みがこぼれた(修猷5-22)。40歳未満では、チームを引っ張るべき吉田貞信さん(平成7年卒)が練習中の肉離れで無念の欠場。それでも、岡本チルドレンが踏ん張って前半は10-12。結局、15-24で敗れ、「溝口杯」は今年も福中・福高にさらわれたが、この世代が順調に体重を増やして貫禄がつけば、10年後、最強の40歳以上が誕生するのでは、と期待を抱かせた。

メインイベントは現役戦。まず、お祝いにかけつけた森喜朗・日本ラグビー協会会長らと仲良く記念撮影に収まった。試合はお互いパスやラインアウトでミスが多かったが、ゴール前の防御など見応えもあった。7-0と修猷リードで折り返し、1トライを加えて12点差としたが、ここから福高が息を吹き返す。初トライを許してゴールも決められ5点差。残り数分、勢いを増す福高に、観戦していた小川洋・福岡県知事(昭和43年卒)の脳裏にも、まさかの逆転負けがよぎったそうだが、何とかしのぎノーサイド。0-70だった「レベルファイブの悪夢」(平成24年)の後、これで3年連続の「新島杯」獲得となった。

100周年に向けて つながる・ひろがる 修猷館ラグビーファミリー

西鉄グランドホテル(福岡市中央区)に会場を移して開かれた祝賀会には400人近くが集った。大庭欣二さん(昭和60年卒)の司会で開会。安部直幸会長(昭和41年卒)は謝辞を述べた後、「修猷館ラグビーのモットーは二つある。一つ目は先輩たちの実績を超えること。二つ目は自分たちの実績を超えられるよう後輩を育てること。この2点が守られる限り、次の10年も大丈夫」と力強く話した。

お祝いに立った森会長は自身のラグビー人生を振り返りながら、「修猷館、そして福高、そういう福岡のラグビー仲間がたくさんいて、皆、凄かった。九州のラグビー、修猷館のラグビー魂が日本のラグビーを支えてきた。修猷館はこれからもラグビーを通じて人間形成の大きな場であってほしい。そして福岡から大きな人材を輩出して日本をさらに前進させてほしい」。近く協会長を退任するため、最後の会長挨拶と言う。

小川知事は「記念すべき日にこの場に立ち皆様に挨拶できることは、本当に光栄、感激している」と館友の視点から語り、「昨年、高校3冠を達成した東福岡に勝利したことは、忘れられない思い出」と昨季のフィー

バーを懐かしんだ。ワールドカップの福岡開催に尽力した鬼木誠・衆議院議員は「ワールドカップはラグビーのレガシーを標榜している。これまで福岡で修猷館が築いてきた90年の歴史、ラグビー文化、これをもって2019年のラグビー文化をさらに発展させ、後輩たちにつないでいく。私たちは前にボールを投げることはできない。後輩たちに、後ろにつないでいくしかない。この福岡、修猷館という伝統のボールを100年、200年とつないでいってほしい」とエールを送った。

修猷館の原田健司主将は「歴史を持つラグビー部の一員としてラグビーができることに感謝し、日々、お互い高め合っていこう」と福高生に語りかけ、花園出場へのぎを削ることを誓った。渡邊顧問は「ラグビー部の生徒は、横のつながりが本当に密で、横の糸がしっかり結ばれている。と同時に縦のつながり、例えば、一年上の先輩には『ノー』と言えない、あの雰囲気。縦のつながりもしっかりしている。また、福高というよきライバルがいる。縦の糸と横の糸、それから外からの刺激で立派な修猷館ラグビー部の織物ができあがっている」と語った。乾杯の挨拶をした末吉紀雄・福岡県ラグビー協会会長は、3年前におやじラグビーの祭典「ゴールデンオールディーズ」を福岡に誘致した際、安部会長が大活躍したことを思い出し、「ワールドカップも安部会長に任せていれば大丈夫。日本一の大会にしたい」と4年後を見据えた。

会場では昭和52年度に全国大会に出場した時の試合など懐かしい映像が流れ、近木俊介さん(平成17年卒)の力作「90周年記念ビデオ」は福中・福高とのライバル対決にも触れた素晴らしい内容で、各テーブルでは現役、保護者、OBらが一体となり談笑の輪が広がった。

福高の森重隆監督は修猷の現役に熱く語りかけた。「諸君。僕の同期は武藤県議会議員。あの時の修猷は、悲しいほど弱かった。試合の時、こちらが涙が出そうなくらい。でも、彼らには試合に勝ちたいという気持ちが、ずーっとあった。そういう先輩の思いが去年、爆発した。ずーっと勝ちたいと思う気持ちが先輩たちにはあった。それが、お前たちを支えているということを忘れないで、明日からランパス20本走ってください!」

全国大会をかけた福岡県予選決勝で福高と最後に対戦したのは昭和55年度。その時、選手だった岡本圭吾・福高教頭(昭和56年卒)と牟田口亨司・福高教諭が当時の映像を見ながら、秘話を披露した。岡本教頭は「福高は5季前に花園へ行った。その前、強かったわけではない。いざという時に花園をつかむのが福高(全国大会37回出場、修猷は8回)。一番、大切な時に、つかみきる力。これを修猷館は学んでほしい」。このほか、柴田忠敏名誉会長(昭和32年卒)に特別功労賞、応援団には感謝状が贈られた。

福高と修猷館でエールを交換、最後に武藤英治副会長(昭和45年卒)が「ラグビーをする目的は勝利することにある。だが、ラグビーをする意義は勝敗を超えたところにある。勝敗も学校も超え、福中・福高の皆さんも修猷館の超OBから現役までそろった。親睦を深める中で、現役の活躍を期待しましょう」と締めくくった。この後、同会場で軽い打ち上げがあり、歴代顧問が思い出を語った。さらに、ラグビー部OBの店へ流れ、忘れられない夜は更けていった。90周年を取り仕切り、成功に導いた堀内恭彦記念事業実行委員長(昭和59年卒)は「『100周年に向けて、つながる・ひろがる修猷館ラグビーファミリー』をテーマに取り組んできた。若手の参加も多く、よいバトンタッチができたのではないかと思う。皆様のご協力・ご尽力に改めて感謝申し上げます」と振り返った。